

第6学年 総合的な学習の時間 学習活動案

	対 象	授 業 者
第 6 学 年 1 組	3 3 名	
第 6 学 年 2 組	3 3 名	
第 6 学 年 3 組	3 3 名	
第 6 学 年 4 組	3 4 名	

- 1 単元名：「桜町プロジェクト」
 1組：「公園プロジェクト」
 2組：「桜町インフルエンサー」
 3組：「オリジナルドリンク」
 4組：「屋上庭園改造計画」

2 単元の目標(単元を通して子どもたちが学ぶであろうことから)

自分と社会との関わりについて考え、そこから桜町小学校区域にある人やもの、場所などについて、触れたり調べたり、体験や身近な大人から話を聞いたりする活動を通して、地域のよさや自分と地域との関わり方などについて理解し、住んでいる地域の魅力や、地域で様々な活動をしている人の思いや願い、地域の一員としての自分たちの在り方について考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができる。

3 育成をめざす資質・能力(育つと考えられる資質・能力)

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解することができる。	実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする。
①人々の思いや願いによってこの社会が成り立っていることに気付いている。 ②本やインターネット、インタビューや実体験などを活用して自己の課題に必要な情報を選択・収集し、課題解決のために活用することができる。 ③自分たちの探究活動の成果やよさに気付いている。	①地域の様々な大人から話を聞き、自分の興味関心が高いものを選び、見通しをもって課題を設定している。 ②必要な情報を得るために情報収集の手段を選択し、傾向を読み取ったり、因果関係を見付けたりして分析し、課題解決を図っている。 ③分析・整理した情報をもとに自分の意見や考えをまとめて表現することで、課題を更新したり、新たな課題を見出したりしている。	①身近な地域に関心をもち、自分なりの関わり方を考えようとしている。 ②考えや立場の異なる友達と協働して課題の解決に向けて取り組もうとしている。 ③自分も地域の一員であることを自覚し、地域のためにできることを考え、積極的に行動しようとしている。 ④互いの資質・能力を認め合い、相互に生かし合う関係の中で、手応えを感じ、一人ひとりの意欲や自信につなげようとしている。

4 研究の手立て

○子ども主体の学習になるための手立て

(1)必然性のある材

昨年度は「米」をテーマとして、米粉を使った料理や、米をもとにした食材をふるまったり、美味しいお茶の淹れ方を探究したりと、各学級単位で活動を行ってきた。その中で、継続して探究することのよさに気づき、今年度も引き続き行いたいという声が多数挙がった。昨年度の振り返りを年度当初に行った際、「自分たちがやりたいと思うことが実現できた。」「ひとつのプロジェクトに様々な角度から挑むことがおもしろかった。」「周りの人たちに感謝された。」と、子ども自身の達成感や自己有用感が多く聞かれた。何より全国学力・学習状況調査(児童質問調査)の結果から「学校に行くのが楽しい」が62.5%、「総合的な学習の時間で課題を立てて取り組む活動に取り組んでいる」が60.8%と昨年度の結果や全国や都の結果と比較しても非常に高く、子どもたちにとって、昨年度の経験はこれまでにない充実した活動だったことが分かった。

今年度は、公園や畑をつくったり、茶室をつくってお茶会をしたりするときに、自分のやりたい事、何ができるのか、やったことはどのような意義があったのかを考える場面が、繰り返し設定されている。これらの活動は、他者と一緒に追究することで、人それぞれの感じるよさの違いに気が付いたり、共感したりすることで、自分のよさも相手のよさも際立ってくる。また、

活動を繰り返し行う中で、自分が思った方法が他者と食い違うことから、いくつもの問題が発生するだろう。その解決には、個々の考えだけではなく、相手の考えていることを聞き出したり、自分がどう考えているのかを説明したりすることを、繰り返すことで、自らの考えを深め、協働してよりよい考えを作り出していくことが必要となる。互いに合意形成を図りながら、自分たちが納得するようにやり方を工夫・修正することを繰り返すことでこそ、子どもたちの力が育つと考える。そして、目の前の活動の良し悪しだけではなく、やっていることの意義を見直し、自分自身の行動を決定できるような、振り返りをもとにした活動を、今後も継続していく。

(2)子どもと共に追究する一人の教師としてのあり方

各学級で扱う材を決める際には、教師自身も心底楽しめるものでなければならないと考えた。教師の「やりたい」という思いを感じることで、子どもは、より能動的に学びに向かうと考える。また、子どもの「やってみたい」という気持ちを実現するための、教師の熱量と覚悟が、追究を進める原動力になるであろう。

1組は、「公園」を材に活動を進めている。教師自身が公園に出かけ、公園の現状を把握したり、地域の方に話を伺ったりするなどして、探究を始めている。また、自分でも植物を育てながら、より強く大きく生長させるために試行錯誤したり、ガーデニングデザインについて資料を集めたりしている。「公園」をきっかけに活動を広げながら、地域の人々や環境との関わりについて理解を深めていきたい。

2組は、「商店街」を材に活動を進めている。近くに住んだり、お店に行ったりしている子どもは多く、教師自身も地元の商店街に行き、その場所のよさを実感している。自分たちの身近な場所の魅力を動画やリーフレットなどで発信する活動を通して、形に残るものを作っていきたい。

3組は、「ドリンク」を材に活動を進めている。子どもの作りたいものに対して、複数の可能性を想定し、事前に準備している。また、実際にオリジナルドリンクを作り、経験したことを伝えられるようにしている。子どもが地域と関わりをもっていくために、自ら地域の店に足を運んでいく。

4組は、「屋上庭園」を材に活動を進めている。本校では、桜が植えられた屋上から富士山を臨むことができる。日本の宝である富士を眺め、桜を背景に、和食の要である米や茶を味わうことを子どもと共に経験したいと考えて、活動を設定した。

○探究的な学びに向かうための手立て

カリキュラム・マネジメント(※後述)

○協働的な課題解決に向かうための手立て

自分の考えや思いを一人ひとりがもつ

グループ活動での相談や、共同作業を行うことが予想される。子ども一人ひとりが材に対して自分の思いや願いをもち、互いのこだわりを自らの力で調整するグループ活動を行っていく。自分たちの技術を高めていく中で、探究していくにあたり「どうすればもっとよくなるだろう」「そのために何が必要だろう」と、学級としての課題を見付け、さらに高みをめざした話し合いが活発になると考える。

5 キャリア・未来デザイン教育の視点から

	「キャリア・未来デザイン教育」の視点	予想される子どもの姿
①	人間関係・社会形成能力(協力・協働) ※他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーションスキル、チームワーク、リーダーシップ等	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内の子ども同士で目標の相談をしている。 ・目標に向かって作業を分担している。 ・関わる人たちへの質問を積極的にしている。 ・他のグループと情報を共有している。 ・材の魅力を異学年や地域の方に発信している。
②	自己理解・自己管理能力(主体性・思考力) ※自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がやってみたいことを決定している。 ・活動そのものや、材の魅力の発信に、意欲的になっている。 ・うまく伝わらない時にはどうすればよいかを考え、行動している。 ・魅力の発信に向けて、役割を認識し、積極的に活動している。
③	課題対応能力(課題発見・分析・解決) ※情報の理解・選択・処理など、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価、改善等	<ul style="list-style-type: none"> ・課題や活動結果から、何を目標にすべきか考えている。 ・得た情報から具体的な取り組みを考えている。 ・職人さんから聞いた話を、適切にまとめている。 ・活動そのものや、魅力の発信の計画を具体的に立てている。
④	キャリアプランニング能力(主体性・役割理解・社会貢献) ※学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性への理解、将来設計、選択、行動と改善等	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動で自分の役割を見付けている。 ・自分たちの向かう活動が、将来に役立つと理解している。 (振り返り等) ・外部からのアドバイスを受け、改善策を考えている。

6 「せたがや探究的な学び」の4つのプロセス

世田谷区では、幼児・児童・生徒の実態に即した「せたがや探究的な学び」を通した指導改善に取り組んでいる。世田谷区の児童・生徒の実態は、学力は定着しているが、学んだことが社会で役に立つという実感や、将来の夢や目標の実現への意欲、人の役に立つ人間になりたいといった意志に課題が見られる。学びの中で、自ら課題を発見し、その課題を解決するための「探究のプロセス」を繰り返し、発展させていくことを通して、将来、自己実現を図るために必要な資質・能力を習得できるような学びを推進していく必要がある。

	探究的な学び 4つのプロセス	予想される子どもの姿
1	課題を見出し、把握している	<ul style="list-style-type: none"> ・屋上庭園をよくするために、何をすべきか考えている。 ・公園プロデュースに対して、様々なアドバイスをもらい、今後何をすべきか考えている。 ・自分たちの町を知ってもらうために何をすべきか考えている。
2	課題解決の方法を考えている	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの思いを実現するにはどんな方法があるか考えている。 ・どんな方法で紹介すれば、この町のよさが伝わるか考えている。
3	協働して学んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・動画撮影の仕方を、意見を交わしながら試行錯誤している。 ・自分たちに必要なものを互いに伝え合い、協力しながら取り組んでいる。 ・オリジナルの遊具や食事を様々な方法で協力して考え、実践している。
4	学びを振り返り、次につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・体験したことをもとに、今後どのように学習を進めていくか考えている。 ・それぞれの取り組みを記録し、さらによくしていく方法を考えている。 ・この経験を、今後の人生でどのように生かしていくか考えている。

7 単元について(単元計画・評価の観点) ※後述

8 本時の展開 ※別紙本時案参照